

人や社会の役に立つために学ぶ

日頃から、『勉強は自分のためにするものではなく、人の役に立つためにするものだ』という話をしています。何点とったか、欠点ではなかったかで一喜一憂することも今の高校生にとっては大切なことなのかもしれませんが、身につけた知識や技能をどのように人の役に立てるか、それを一般の生活や社会、職業でどのように生かしていけるかが勉強だということです。本校に限らず農業高校、専門高校の多くは、身につけた知識や技能を確実に自分のものとするために、それを実際に使ってみるという学習活動を多くの学科が取り入れて実践しています。

毎年本校の生物生産科や総合学科食品科学系列では、「まつえ市民大学」に協力して学校で行う様々な講義や実験・実習を松江市の方々に教えるということをして、本校の教育施設を開放して行っています。先日はふるさと環境コース「絶滅危惧種を救う！」という講義を行い、生物生産科の生徒と教員が、植物バイオテクノロジーを利用した植物の増やし方、絶滅危惧植物の保護・増殖などについての授業をしました。実際にはイワチドリとフウランの植え付けを行ったり、培地調整室・無菌室・培養室を実際に使いながら授業を展開したようです。2日間で45名の方が受講され、そこでの感想をいくつか紹介します。

- ・バイオテクノロジーの植物への応用など、興味深く勉強できた。サポートしてくれた生徒さんたちがとても楽しそうに説明してくれたのが印象的だった。
- ・農林高校の勉強ってこんなに楽しく豊かな、そして未来にもつながるものだということが初めてわかった。いい体験もできました。いろいろな意味で勉強になりました。
- ・今日はとても感激しました。高校でこのような学習(バイオテクノロジー)をされていることを知り、驚きました。すごいですね。今日植えた花が咲くよう大切に育てたいと思います。今日はありがとうございました。
- ・植物を増やす方法をたくさん知ることができた。また、絶滅危惧種の植物を絶やさない努力が日々なされていることに感銘を受けた。

まつえ市民大学担当の方から送られてきた礼状に添えられたアンケート結果にはこのようなありがたい感想が、A4用紙2枚にわたりつづられていました。

植物の名前や発生する病気を知っていても、実際に栽培したり病気を予防しないと役には立ちません。そのために習ったことを繰り返し実践し、学校外でやってみて、試しながら力をつけ、生徒は自分の知識や技能、そして自分自身の関わりが人の役に立っていることを実感し、社会性や職業観・勤労観を身につけていきます。これが本校での学びの大きな特徴なのでしょう。幼稚園等との交流、販売実習、中学生体験入学、インターンシップ、ボランティア活動・・・などなど、そんな学びの場面はたくさんあります。多くの生徒がこのような活動を積極的に行っています。「為すことによる学び」です。

本日11月7日は生物生産科2年農業機械・作物コース専攻生が育英幼稚園に出かけ、もちつき交流会に参加し、11月11日の第2回食の縁結び甲子園全国大会には23名の生徒が場内アナウンス・リポーター、出場チームサポート、高校製造品販売、来場者案内などのボランティアに参加し、約50名の生徒がこの大会を見学に出かけるなど、地域との連携や自らの見聞を広めようとする自主的な活動が続きます。



第16回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト秋田大会、最終試作品(上)と全国大会での作品(下)。

入賞は逃しましたが、大会前の約1ヶ月間、週1回の特訓を経て大会に臨みました。様々な経験を積みながら専門性と感性に磨きをかけます。

